

# 山田錦プロジェクト2020

## グランプリは福岡県朝倉市 株式会社ウイング甘木



エコ・ライス新潟で、「山田錦プロジェクト2020」YouTubeライブ配信を見つめる協議会幹部ら



# 生産者通信

(有)エコ・ライス新潟  
定価 100円(送料込)

1月23日(土)午後1時より、グランプリの発表がYouTubeのライブ配信で行われました。新潟県山田錦協議会では、岩渕会長ら幹部がエコ・ライス新潟に集まり視聴しました。

### グランプリは福岡県朝倉市 株式会社ウイング甘木

福岡県の中南部、筑後地域に位置し、8名の専従者で水稲90ha、麦120ha、黒米10ha、赤米4ha、モチ米15haに加えて園芸を栽培。山田錦の作付けは26ha。地域の中核組織として若手従業員を多数雇用。

株式会社ウイング甘木のホームページ  
<http://wing-amagi.com>

### 出品レベル急上昇のなか 断トツの品質

昨年12月3日の予審を見学した際に一目見て他の出品と比べ断トツの品質の高さに驚きましたが、60俵を審査した結審でも品質が統一されていました。準グランプリは、昨年度のグラン

プリの栃木県(株)山田錦栽培研究所が受賞。予審通過8件のうち実に6件が栃木県。旭酒造は、令和2年産で約13万2千俵の山田錦を集荷。35年前には山田錦の使用は0俵で山口県全体でも60〜70俵程度で、平成から令和にかけて急激に伸びています。

今回は全国から127件がエントリーし出品は63件、43件が予審に進みました。新潟県山田錦協議会で6件を出品4件が予審に進みましたが、残念ながら予審を通過できませんでした。令和3年産では予審通過をして結審に進みましょう！



グランプリの山田錦

## 未検査米の3点セット表示 非産地品種銘柄も可能

食品表示基準の改正によつて7月1日から、移行期間を設けず完全実施となる未検査米の3点セット表示(産地・品種・産年)。農産物検査を受けて3点セットを行う場合、表示方法はこれまでと同じだが、検査を受けないコメでも表示の根拠を示す資料があれば3点セット表示が可能になる。7月以降は従来型の「農産物検査証明」に基づく3点セット表示と、新たに認められる「未検査・根拠資料に基づく3点セット表示」という2通りの表示が並立する中で、後者については「産地品種銘柄」指定の制約を受けない3点セット表示が可能になる。

新たに認められる未検査・根拠資料に基づく表示は産地品種銘柄指定の制約を受けない。事実と根拠があれば、原則すべての品種で3点セット表示が可能だ。

現行制度では、該当県で「産地品種銘柄」に指定されていないコメは「その他銘柄」扱いでしか検査を受けれず、銘柄格付けができない。

意欲的な生産者ほど、希少性の高いマイナー品種を独自に導入して差別化・有利販売を目指す傾向がある。また農地集積が進む大規模層でも作期分散や需要に応じた生産体系確立の必要性などから作付品種が多様化し、非産地品種銘柄のマイナー品種を導入するケースが増えている。

今回の改正について消費者庁食品表示企画課では、「嘘をついているわけではないのに、また種苗法などに基づいて正規に種を手当して作付けしたコメなのに、(産地品種銘柄指定の制約によって)『事実』を名乗れないのはおかしい話。その表示が正しいという『事実と根拠』を示す資料があれば表示を認めてもいいのではないか、というのが今回の見直しの出発点」と説明。

なお種苗法で登録されていない品種をどうするかについては、「現段階では断定出来ないが、少なくとも種苗法で品種登録されているきちんとした品種で、表示の根拠がしっかりあれば、銘柄表示を可能にする予定」と説明している。

## プレナスが国内でコメ生産 海外店舗へ輸出計画

持ち帰り弁当チェーンの「ほっともつと」や定食レストラン「やよい軒(YAYOI)」を国内外で展開している(株)プレナス(塩井辰男社長、本社福岡市博多区)は先ごろ、海外の店舗に国産米を輸出するため、今年から国内でコメの生産に取り組む方針を明らかにした。日本米を世界に広げるために農地を借り受け、自社でコメの生産を開始する。

プレナスでは、IoTやロボットなどのテクノロジーを導入したいわゆるスマート農業や多収米も活用し、生産性の高い稲作経営に取り組む。それによつて食味とコスト競争力に強みを持つ輸出米を育て、海外で展開する「ほっともつと」や「やよい軒」への供給を皮切りに、海外での販路拡大も視野に入れて本格的なコメ輸出事業の展開を目指す。

こうした背景には、昨今の農業従事者の減少や後継者不足、耕作放棄地の増加など日本農業が抱えているさまざまな課題がある。プ

レナスは自社で取り組むコメの生産と輸出を通じ、これらの課題や地域環境の保全など日本の農業や地域社会が抱える課題を解決する一助となるよう努めていく。

プレナスは昭和55年に食事業に参入し、昨年12月末現在で国内外で3124店舗(国内2866店舗、海外9カ国・地域で258店舗)を展開。米飯への強いこだわりを事業の柱として拡大してきた。

## 自社工場から精米供給

平成6年には自社精米工場を稼働させている。産地から玄米を仕入れて精米し、国内の各店舗に供給。また日本の食文化を守り、未来に受け継いでいく「米文化継承事業」を立ち上げ、さまざまな活動にも取り組んでいる。

2021年(令和3年)1月28日付け  
商経アドバイスより抜粋

